

VOICE

Volunteers Of International Communication & Exchange



VOL.65

発行日 2017年3月30日
発行 熊本県国際協会
〒862-8570
熊本市中央区水前寺6丁目18-1
熊本県国際課内
TEL 096-385-4488
FAX 096-277-7005
E-mail kuma-koku@cup.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.kuma-koku.jp/>

1 国際協会活動報告

- 第23回熊本国際交流祭典報告
- 肥後っ子わくわく地球教室を開催しました！

2 会員団体紹介

- 国立病院機構熊本医療センター

3 トピックス

- カンボジア王国チア・キムター特命全権大使が来町
～子どもから子どもへと受け継がれる国際貢献の想い～ —— 芦北町国際交流協会
- 国際交流活動報告 —— 菊池国際交流協会
- 被災により姉妹都市との絆深まる
～姉妹都市米国ヘイスティング市から市民訪問団が来町～ —— 大津町国際交流協会
- 熊本地震における活動 —— 一般社団法人熊本市国際交流振興事業団
- 復興に向けて笑顔でチャレンジ —— MATE インターナショナル倶楽部
- バリ州知事歓迎パーティと KIFA 塾の開催 —— NPO 法人 熊本インドネシア友好協会
- 震災復興後の「世界とつながる新たな熊本の創造」へ向けた取組み —— 熊本県
- 熊本の留学生たち —— 東海大学九州キャンパス

4 会員団体行事予定



第23回熊本国際交流祭典ステージ

◆「第23回熊本国際交流祭典」報告

2016年11月27日（日）、益城町のエミナースで「第23回熊本国際交流祭典」を開催しました。今回は例年会場としていた健軍商店街が熊本地震で被害を受けたこともあり、地震からの復興をテーマに、被害の大きかった益城町に会場を移し、被災地の方々に勇気づけ、また被災地から復興を発信する特別な祭典となりました。

祭典当日はあいにくの雨となり、規模が当初の予定の半分程度となってしまいましたが、ステージでは、ハワイアンソングライブやインドネシアのふるさとの歌、太鼓の演奏などが披露されるなど、例年に勝るとも劣らない国際色豊かな祭典となりました。留学生を含む在留外国人の方々と大学生を中心としたボランティアの温かい対応により、雨天にもかかわらず多くの来場者にとって楽しい時間となりました。ドイツのお祭り「オクトーバーフェスト」にちなんだ交流イベントや、煎茶試飲、着物着付け体験、世界のグルメ、パネル展示、バザー、スタンプラリーなどのイベントを通じ、来場の皆さんに会員団体の日頃の活動を知っていただくとともに、海外の様々な文化に触れていただくことができました。フィナーレではくまモンも登場し、「小さな世界」、「Believe」の2曲を会場の皆さんと大合唱し、これからの熊本の復興を誓いました。

熊本国際交流祭典実行委員会



インドネシアのふるさとの歌



留学生による食品バザー



五ツ太鼓彩流



異文化体験（ドイツ）



くまモンと一緒にみんなで大合唱！

◆「肥後っ子わくわく地球教室」を開催しました！

2016年10月19日に荒尾市立府本小学校で肥後っ子わくわく地球教室を行いました。アメリカをはじめドイツ、南アフリカなど6か国から講師が訪問し、実物や写真を見せながら子どもたちに自国の紹介をしました。子どもたちからは様々な質問が飛び交い、彼らの国の文化や言語への興味関心を高める有意義な時間となりました。

なお、今年度は、府本小学校以外にも、玉名市の中学校や山都町の小学校など様々な学校や地域からの要望により、子どもたちが異文化を体験する機会を多く提供することができました。



ローラ国際交流員によるアメリカの紹介

◆ 国立病院機構 熊本医療センター

当医療センターは、1985年、世界保健機構（WHO）で天然痘の撲滅という輝かしい業績をあげた蟻田功医師の院長就任とともに、国際協力活動を開始しました。その中で、当時の細川護熙県知事と熊本から世界に発信できる事業を模索し、その頃熊本で世界をリードしていたレトロウイルス研究とその疾患治療に携るグループに着目し、1989年に日本国際協力機構（JICA）集団研修「血液由来感染症—AIDS、ATL、肝炎B」を開催するに至りました。その後、当院で実施されるJICA集団研修は多いときで年間10コースとなり、これまで120カ国から1400名もの研修員が熊本を訪れました。

一方、1987年、医療技術専門家として梅木民子看護師のザンビアへの派遣（2年間）で、海外派遣事業のスタートを切りました。1996年からは当院主催の血液由来感染症コースをモデルとしてエジプトのスエズ運河大学で第三国研修感染症診断コースが始まり、毎年2名の講師を派遣しています。また当院JICA研修のフォローアップのため、2012年にブラジル、そして2014年にエジプトを訪問しました。

ここ数年は、肝炎、輸血、エイズ、そして高齢者対策に関する4つのJICA研修コースが開催されています。これからも熊本と世界各国とを結びつける仕事を続けてまいります。

国立病院機構 熊本医療センター 臨床検査科長 武本重毅



国立病院機構熊本医療センターのヘリポートで、各国のエイズ対策メンバーと講師

◆ カンボジア王国チア・キムター特命全権大使が来町 子どもから子どもへと受け継がれる国際貢献の想い —— 芦北町国際交流協会

芦北町国際交流協会は、中高生を英国へ派遣する事業やカンボジアに学校を贈るための募金活動を中心に行っており、1996年の活動開始以来、これまでに5校の小学校を贈呈しています。

本協会は、今年度が発足20年の節目に当たることから、10月23日に「道の駅芦北でこぼん」で開催された「芦北町国際交流まつり」に、駐日カンボジア王国特命全権大使であるチア・キムター閣下を招待しました。

歓迎式典は、あいにくの雨のため急遽会場を芦北町役場に移して行い、町内3小学校の児童が募金活動の内容や伝統芸能を披露しました。大使は「カンボジアに学校を贈る運動」による学校の贈呈に対して、「カンボジアの教育と人づくりへの協力に感謝している。今後も日本とカンボジアの友好関係を深める交流を続けてほしい。」と謝辞を述べられました。



伝統芸能「内野棒踊り」の披露



大使を出迎える子どもたち

現在のカンボジアの経済発展は著しく、運動が始まった当初に比べ、同じ規模の学校を建設するにも2倍以上の費用がかかり、より多くの時間を要します。今回の大使の来町は、多くの町民にとって、「この運動が遠く離れたカンボジアの地で確実に実を結んでいる」ということを実感する機会になったのではないのでしょうか。

活動が始まった頃の子どもたちは大人となり、「自分の子どもにも国際感覚を養う経験をさせたい。」と言っています。20年たった今、当時の子どもから今の子どもへと国際貢献の想いは受け継がれているようです。

芦北町国際交流協会事務局（芦北町企画財政課内） 蓑田真平

◆ 国際交流活動報告 — 菊池国際交流協会

菊池国際交流協会では、2016年10月に外国人アーティストを招いて、国際交流コンサート“WORLD MUSIC NIGHT”を開催しました。

県の文化財にも指定される菊池松囃子能場（普段は能や狂言を奉納する舞台です）を舞台に、家族ならではの美しいハーモニーを聞かせてくれたノーマン・スミスファミリー、尺八とピアノの音色で会場を幻想的な雰囲気包んだウヴェ・ワルター氏とホルガー・マンタイ氏、伸びやかで情熱的な馬頭琴を披露したマイラス氏の3組のアーティストが出演。観客は、日本の伝統を表す能場と世界の音楽のコラボレーションを楽しみました。

また、子育て世代のお父さん、お母さんも子どもを連れて気軽に参加してもらいたいとの思いから、保育園の交流ホールを会場としたレクリエーションを企画し、11月に国際交流レクリエーション“International Fun Day”を開催しました。

ミャンマー、ベトナム、アメリカ、中国出身の在住外国人と日本人、合わせて40名の参加者たちは、まずはハイタッチを交わしながらの自己紹介。最初は緊張気味の表情だった参加者も徐々に打ち解け、その後の風船リレーやトランプゲームなどのレクリエーションでは歓声を上げながら楽しそうな笑顔を見せていました。

菊池国際交流協会



国際交流コンサートの様子



国際交流レクリエーションの参加者たち

◆ 被災により姉妹都市との絆深まる

～姉妹都市米国ヘイスティングズ市から市民訪問団が来町～ — 大津町・大津町国際交流協会

2016年11月、大津町の姉妹都市米国ネブラスカ州ヘイスティングズ市からタミー・シック同市国際交流協会会長ら6人が来町し、大津町国際交流協会の会員宅にホームステイしながら9日間の交流プログラムで親交を深めました。また、町内外の熊本地震の被災地も視察し、地震がないという米国中西部から来た訪問団の皆さんは大地震の恐ろしさを強く感じたようでした。

熊本地震は米国でも報道され、同市の国際交流協会がすぐに募金活動を展開。地元紙には「日本の姉妹都市のために私たちに何ができるかが問われている」という見出しが載り、市民から募った多額の寄附金が大津町に届けられました。この支援に



お礼の絵手紙などを訪問団に託す
大津南小学校の児童たち

対して、11月6日に町内で開かれた歓迎会で家入勲町長がシック会長に感謝状を贈りました。

また、同市のロングフェロー公立小学校からも励ましの絵手紙が届き、大津南小学校の児童が書いたお礼の絵手紙が同小を訪問した市民訪問団に託されました。一方、今回の訪問団のメンバーのひとりで、20年前に姉妹都市提携を記念して両市町の庭師ボランティアの手により造られた「友好の日本庭園」の管理責任者であるフランク・E・ワグナーさんは、滞在中に地元の翔陽高校を訪問。造園科の授業に参加して、熊本地震で倒壊した石灯籠の修復作業や庭木の剪定方法などの技術を生徒と一緒に学びながら交流しました。

大津町・大津町国際交流協会



歓迎レセプションにて

◆ 熊本地震における活動 — 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

昨年、4月14日、16日2度にわたって熊本地方を襲った凄まじい地震。これまで体験したことのない揺れとその後続く激しい余震に恐怖と先の見えない不安。そのような中、当事業団では、管理運営する熊本市国際交流会館（以下、「会館」という。）を熊本市の指示により16日から5月6日まで外国人避難対応施設として24時間運営しました。震災直後、様々な情報を求めてたくさんの外国人が会館を訪れました。多くは旅行者等一時滞在者の方々と思います。彼らは、ある程度の情報を得ると、県外やその場を離れるべく移動していきました。会館の避難者も16日は147名、翌日の避難者は103名、その翌日は81名と徐々に減少していきました。避難者は外国人ばかりでなく、日本人も避難していました。当初、会館は指定避難所ではなかったので、すぐにインターネットで物資協力を呼びかけ、全国の団体、個人より多くの支援物資を届けていただきました。更に、県内の外国人支援団体「コムスタカ〜外国人と共に生きる会〜」には、震災直後からほぼ毎日炊き出しの協力をいただき、避難者に温かい食事を提供することができました。また、避難している外国人自身が、中華料理やエスニック料理を作ってふるまってくれ、温かい食事を食べることができて、心の安定・安心にもつながったと思います。そこには、言葉、文化に違いはあれど一緒に避難し、同じ場所で生活する人々の協力する姿がありました。地震というとても怖い恐怖体験を共有したことで連帯感がめばえ、お互いを意識し、小さなコミュニティ・理想の多文化共生社会がそこにはありました。

一般社団法人 熊本市国際交流振興事業団



炊き出しの様子



多言語情報提供



避難者の様子

◆ 復興に向けて笑顔でチャレンジ — MATE インターナショナル倶楽部 (MIC)

MICでは、震災後に【MGM 益城がんばるもん協議会】を立ち上げ、NPO 支援団体や個人との情報共有を図ることで、益城在住の外国人の方々の安否確認 & 物資提供が速やかにできました。また、エクアドル大使館より頂いたコーヒーの配布で、被災者たちにくつろぎのひと時を届けることができました。UNICEF 支援より仙台在住のマリールイズさん（ルワンダ出身）とみなし仮設を訪問し、外国人の人のハートの優しさに触れた皆さんが笑顔になられたことに感動しました。外国人ボランティアと被災者の要望とのマッチングも実施し、『諸外国の料理』の炊出しや『神社の竹灯り祭り』、園児への行事サポート等大変効率的な活動ができ、仮設住宅やみなし仮設の方々とのコミュニケーションを図ることで笑顔が広がりました。特に、国際協会の皆様からは、いち早くお声かけや多くの支援物資を提供いただき、とても勇気付けられ、感謝申し上げます。

MATE インターナショナル倶楽部 代表 酒井陽子



マリールイズ（左から3番目）



台湾から駆けつけてくれたボランティアとミーティング中



ハロウィンパーティーにて

◆ バリ州知事歓迎パーティと KIFA 塾の開催 — NPO 法人熊本インドネシア友好協会

NPO 法人熊本インドネシア友好協会（KIFA）では、熊本県とバリ州との「国際交流促進に関する覚書（MOU）」の締結のため来熊したバリ州知事一行を歓迎するため、2016年11月17日ホテルニューオータニ熊本において、第2回KIFA塾と歓迎パーティを開催しました。

まず、KIFA塾では、講師に元インドネシア国家警察長官アドバイザーの山崎裕人氏をお招きし、「インドネシア・日本国際交流の展望と課題」と題して講演をいただきました。

講演会に引き続き、バリ州知事歓迎パーティを行いました。パーティは、バリ州からの10名を含む計100名の出席があり、終始和やかに懇談が行われ、交流することができました。

今回のMOU調印は、KIFAとしても待望の調印であり、バリ州との新しい道が開け、今後、観光、農畜産業、教育などの分野で交流が促進されることを期待しています。

NPO 法人熊本インドネシア友好協会理事長 森義臣



歓迎パーティであいさつするバリ州知事

◆ 震災復興後の「世界とつながる新たな熊本の創造」へ向けた取組み — 熊本県

熊本県では、「熊本復旧・復興4カ年戦略」の「世界とつながる新たな熊本の創造」の加速化のため、アジア各国とつながり様々な震災復興プロジェクトを展開しています。その中から、未来につながる海外連携の重要イベントとして、「バリ州とのMOU締結」及び「高雄市との友好交流協定締結」をご紹介します。

インドネシア・バリ州との国際交流促進の覚書（MOU）締結

2016年11月17日、インドネシア・バリ州と国際交流促進に関する覚書に調印しました。覚書では、観光・農畜産分野での情報交換や、教育分野では人材育成のため、大学などの教育機関と学生の交流について、互いに協力していくこととしています。

蒲島知事は、「バリ州は世界有数の観光先進地。バリのおもてなしは大変参考になるものと期待している」と述べ、パステイカ知事は「熊本の先進的な農業技術を学びたい」との意向を示されました。

今後、アセアンにおける存在感を発揮する世界有数のリゾート・バリ州と様々な交流を進めて参ります。

台湾・高雄市との友好交流協定締結

2017年1月11日、熊本県、熊本市、高雄市との3者により友好交流協定に調印しました。

2013年に台湾・高雄市とMOUを締結して以来、経済、観光、教育などの分野において、様々な交流を続けており、熊本—高雄間の直行便就航等、目に見える具体的な成果が次々と現れています。

一方で、昨年熊本地震に際しては、高雄市は震災直後から、全市を挙げての義援金募集や、運休した熊本—高雄線の早期再開に向けて関係機関への働きかけなど、支援のため積極的に取り組んでいただきました。今後、震災のダメージから早期に立ち直り、創造的な復興を実現するためには、高雄市との交流を更に深め、経済効果を高めていくことが重要であると考え、これまでのMOUをグレードアップし、新たに「友好交流協定」を締結することとしたものです。

協定では、経済、観光、教育、スポーツ、文化等の分野で交流を推進することとしており、これまで以上に高雄市政府や現地企業との連携を深めながら様々な取組みを展開して参ります。



バリ州パステイカ知事と



台湾高雄・陳菊市長を囲んで固い握手

熊本県国際課

◆ 熊本の留学生たち — 東海大学九州キャンパス

—東海大学では、2017年2月13日現在、4カ国から17名の留学生が本学九州キャンパスに在籍し、いろんな専門分野について勉強しています。

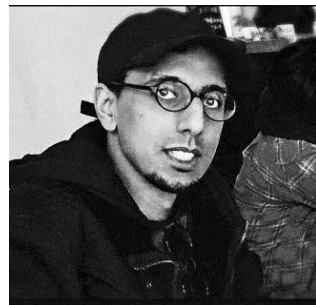
WATCHARIN AUSAMA (ワッチャリン ウサマ) さん (23) タイ 基盤工学部 電気電子情報工学科

- 東京で1年間日本語を学び熊本に来て3年目。日本の文化や食べ物にも慣れてきましたが、スーパーでもタイの食材が手に入るので、家ではタイ料理をよく作っています。
- 日本に来て一番素晴らしいと思うことは、皆が時間を守る事と優しく接してくれる事です。
- 駅員の方が電車に向かってお辞儀する事に驚きました。
- 毎日大学で勉強する事はとても楽しいです。色々な所に出掛けるのが好きで、そこで新たな出会いを経て友人を作る事が楽しいです。
- 国費留学のため卒業後はタイへ帰国し、今まで学んだ事を生かして日系企業に就職したいと思っています。また、将来は日本で就職し、日本に住みたいと思っています。



ALTULAYHAN FAHAD AHMED S (アルトゥライハン・ファハド・アム) さん (34) サウジアラビア 経営学部 経営学科

- 熊本に最初に到着した時は、空気がとても澄んでいて爽やかな印象を受けました。
- 留学する前は熊本の事についてほとんど知識がありませんでしたが、熊本の方は皆さんフレンドリーで優しい人ばかりで、とても楽しく充実した4年間を過ごしています。
- 熊本は自然豊かで住みやすい街だと思います。日々、熊本での生活を楽しんでいます。
- 大学院へ進学して、もっと日本のビジネスについて勉強がしたいです。また、将来は学んだ事を生かして自国で起業し、日本の製品を広める仕事をする事が自分の中での大きな目標です。
- 日本が好きなので、留学生活を通じてより一層日本に対する理解を深めていきたいです。アラブ諸国の人々にも日本の素晴らしさを紹介したいと思っています。



王 恬 (ワテン) さん (24) 中国 経営学部 経営学科

- 福岡で2年間日本語を学んだ後、2014年から熊本キャンパスの経営学部で学んでいます。授業が無い時は飲食店でアルバイトをする事もあります。
- 日常生活において中国と大きく変わっている事はあまり無いように思いますが、気付いた事としては、中国に比べて日本のカラスは大きく、街中でもたくさん見かけるということです。
- 昨年4月に発生した地震は今までに経験した事が無い大きな地震だったので、本当に驚きました。
- 趣味は映画やドラマ鑑賞で、日本や海外のドラマも見ます。肉料理が大好きです。最近はなかなか出来ませんが、運動する事も好きです。
- 英語や専門知識を勉強して大学院に進学したいです。また、日本以外の国にも留学してみたいです。将来は中国に限らず海外での就職も視野に入れており、学んだ事を生かしてグローバルに活躍出来たら良いと思います。



金 周映 (キムジユン) さん (21) 韓国 基盤工学部 電気電子情報工学科

- 日本に住んで2年になりました。今までに東京と大阪に住んだことがありますが、熊本は自然が多くとても住みやすい街だと思います。
- 日本の皆さんは親切で丁寧に対応して下さいます。
- 阿蘇の牛乳を使ったアイスクリームは美味しくて好きです。
- 特技は楽器演奏(ピアノ・フルート)で、映画、音楽鑑賞が好きです。アニメも見ます。上通や下通にもよく遊びに行きます。
- 大学院への進学を考えています。将来は専攻で学んだ事を生かして日本で就職をしたいです。日本への留学を悩んだ事もありましたが、結果的には留学して良かったと思います。何かを悩んでいる人には、積極的に行動に移すことも大切だという事をアドバイスしたいです。



東海大学 熊本事務課企画調整担当



会員団体行事予定

(2017年4月～2018年3月)

事業名	開催日時・場所	事業内容	主催・連絡先
チューリップ復興 開花祭	2017年4月中旬 益城の仮設住宅及び赤井 地区周辺地域	益城町周辺に咲いている7000 本のチューリップの花見をしながら、ダンスやサイクリング、 益城美味しいもんで姫ダゴ汁等舌 づつみも楽しめるミニ国際交流	MATE インターナショナル 倶楽部 (事務局メナード内) 酒井 096-286-0994
子ども国際文化交流 ミュージカル	2017年11月(予定) 場所未定	プロの音楽家の指導の元、昨年は 殆どのびのびと行動ができな かった子ども達が、諸外国の 方々と一緒にミュージカルを体 験しながら国際交流を体感して いく事を目的に上演します。	
2017 JIC Academy ～第30回国際アカデミー in 熊本～	2017年7月6日(木) ～7月13日(木) 菊南温泉ユウベルホテル 他 県内各地	国際意識醸成事業を実施しま す。ホストファミリー募集中! 世界各国のリーダーと触れ合っ てみませんか?	一般社団法人熊本青年会議所 副理事長 大舘 敬七郎 096-352-6655 (携帯) 090-4589-0713 http://www.kumamotojc.com/
第19期市民講座 「アイルランドの魅力=古 代ケルトの祈りと再生=」	2017年5月27日(土) 14:00～15:30 (株)お菓子の香梅 帯山店 ドゥ・アート・スペース	『ラフカディオ・ハーンとアイル ランド』と題し西川盛雄氏熊本 大学名誉教授の講座を開講しま す。	熊本アイルランド協会 笹原元子 096-366-5151 http://www.kumamoto-ireland.org/
	2017年7月22日(土) 14:00～15:30 (株)お菓子の香梅 帯山店 ドゥ・アート・スペース	『「アイルランドの妖精民話：淵 源と伝播」(仮題)』と題し高木 朝子氏 熊本高専熊本キャンパス 准教授の講座を開講します。	
	2017年9月16日(土) 14:00～15:30 (株)お菓子の香梅 帯山店 ドゥ・アート・スペース	『「街道」とヨーロッパ』と題し 八田茂樹氏 熊本高専熊本キャン パス名誉教授の講座を開講しま す。	
	2017年10月28日(土) 14:00～15:30 (株)お菓子の香梅 帯山店 ドゥ・アート・スペース	『ハーンの遺作「日本 一つの試 論」』と題し坂本弘敏氏 小泉八 雲熊本旧居館長の講座を開講し ます。	
	2017年11月4日(土) 14:00～15:30 (株)お菓子の香梅 帯山店 ドゥ・アート・スペース	『アイルランドの民話と民謡の 世界』(朗読とおはなし)と題し 石路 <small>フオホキ</small> の花の会 代表 齊藤幸子 氏の講座を開講します。	

広報誌「VOICE」の編集委員

上野淳(熊本日伯協会)、上村勝代(熊本市北部国際青年交流会)、清田忠臣(熊本県日中友好協会)、石岩(東海大学)、
神保勝己((公財)熊本YMCA)、寺本祐司(崇城大学)、藤門豊明(熊本アイルランド協会)、松川勝一郎((一社)熊本
青年会議所)、毛利秀士(熊本むくげの会)、熊本県国際協会事務局